

駒ヶ根市文化財

名称	阪本天山の墾田の碑
種別	歴史資料
所在地	東伊那大久保
説明	<p>大久保の通称新六島、塩田川の河口に、高遠藩学の祖といわれている阪本天山揮毫の墾田(こんでん)の碑がある。</p> <p>石質は下塩田花崗岩である。</p> <p>碑の冒頭に”大窪邨中邨氏墾田碣記(おおくぼむらなかむらしこんでんげき)”とあり、土地の人は称して、墾田の碑といっている。</p> <p>この地域一帯は古くから、塩田川・天竜川・大田切川の氾濫によって、たえず水害が起り、手のつけられぬ荒地であった。寛政元年(1789年)の洪水で天竜川の流れに変化が生じ、水流が西の方へ移って、この付近一帯が干潟になった。ここに目をつけたのが、土地の寺子屋師匠であり天竜川材木改番所役人をしていた中村道民(1729～1811)で、彼は3箇年の日時を費やし数ヘクタールの水田を造成した。</p> <p>開田を終えた翌寛政4年(1792)、この地を訪れたときの郡代阪本天山は、道民の壮挙を賞揚してこの碑文を起草したものである。碑文は220年近い歳月、風雨にさらされて、現在ではかつてとった拓本で読解する外ないが、上記中村道民の墾田に至る迄の経緯を、情熱をもって書きあげた漢文体である。</p>



阪本天山の墾田の碑